

自民党衆議院埼玉県第3選挙区（越谷市・草加市）支部長

TPP問題からわかる現政権の弱腰外交

緊急報告

きかわだひとし
黄川田仁志きかわだステーション+
プラス

※『きかステ』と呼んでください！

自立と誇りある
日本をつくります●TPPとは何か？

今、新聞やテレビで盛んに報道されている TPP ですが、改めて TPP とはどのようなものか、議論の前に見てみたいと思います。TPP とは環太平洋経済連携協定の略です。参加国との間で、関税・非関税障壁を取り払い、ヒト・モノ・カネを自由に流通させようとするものです。

TPP 参加表明国はブルネイ、シンガポール、チリ、ニュージーランド、マレーシア、アメリカ、オーストラリア、ベトナム、ペルーです。このうち、日本は6カ国との間で EPA(経済連携協定)発効済みまたは合意済みです。オーストラリアとは EPA 交渉中です。アメリカとニュージーランドの2カ国のみが、日本との間で EPA または FTA(自由貿易協定)の動きがないだけです。

●TPP 参加のメリットがわからない～アジアの成長は EPA と FTA で！

そもそも TPP の参加によってもたらされる我が国の国益とは何でしょうか。TPP 参加の利点に、アジアの成長を取りこむためということを挙げる方がいますが、TPP 参加表明のアジア各国とは、日本はすでに EPA の発行または合意を取りつけています。また TPP には、中国とインドという大市場が入っていません。私はアジアの成長を取りこむというのであれば、中国とインドとの EPA 発効に努力をすべきであると考えています。アジア市場を取り込むということは、TPP の利点にはなりません。

●農業問題はしっかり国内問題として解決する！～現政権の TPP 参加は政治の怠慢の象徴

TPP の最大の懸案は、日本の農業とされています。確かに TPP によって、農産物の関税がなくなれば、日本の農業がこのままで済むはずはありません。TPP によって、農業を強化し、日本の農業を、輸出産業にしようと、鼻息をあげる政治家がいますが、しかしこれは違うと思います。TPP に参加するためには、農業を強化するか保護しなければなりません。これは確かです。しかし、TPP によって農業は強くなりません。ここを間違えては、とんでもないことになります。まず、農業の強化政策はどうか、保護政策はどうかを提示しないとイケません。それが無いままに、日本の農業が自由貿易にさらされれば、壊滅的な打撃を受けるでしょう。外圧でガラガラポンして農政を変えようというのは、無責任きわまりないやり方です。これは政治の怠慢だと思います。こんな外圧を使わないで、政治家は、しっかり議論して、日本国内農業の近代化に取り組まなければなりません。

●自分の道を自分で描く政治を～アメリカの戦略に対応するのみの外交から脱却せよ！

結局 TPP 参加の議論というのは、アメリカの戦略にどう付き合うかということです。これは参加国を見れば、一目瞭然です。アメリカが日本との二国間の EPA 交渉ができないので、多国間の枠組みを使った TPP を持ち出してきただけです。現政権は、TPP に参加することは「第二の開国」であるとか、日本の新しい未来を切り開くかのようにいいます。しかし、私は TPP 参加こそ、アメリカに NO と言えない日本の弱腰外交の延長線上にあると思います。日本は自分で自分の道を切り開かなければなりません。TPP に参加せず、日本国内の農政を正し、中国やインドとの EPA を模索することこそ、本当の政治の務めであると思います。